

50代の趣味ライフはリアル・スタイルで！

趣味室をつくれれば、うまく行く？



若い頃は興味のおもむくまま、いろんな趣味にチャレンジしたもののけど、これからは本当に好きなことを悠々と深めていきたいと思う。

そのためには、やはりわが家にその拠点を置くべきだろう。子どもたちが巣立った今では空間にゆとりがあるから、念願の書斎や趣味室もかなえられそうだ。

妻は長年、家事と子育てをしながら趣味もあきらめずに続けてきた。「君もそろそろアトリエを持つべきだ」と話したら、彼女は満面の笑顔になったものだ。いや、ちょっと待てよ。そういえばこのあいだ、ちょっと気になることを耳にしたなあ。

「夫婦それぞれがようやく趣味に没頭できるようになって喜んでいたんだが、気がつけば二人と一緒に過ごす時間がめっきり減っていた。ちょっと複雑だね…」

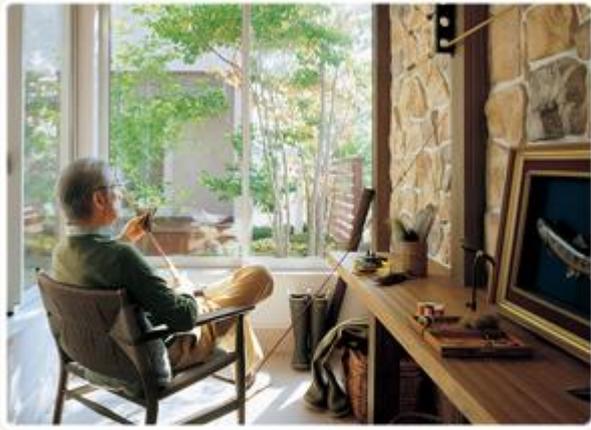
趣味空間にも何か、つくりかたの秘訣があるのだろうか。

”おこもり部屋”はGOOD、それともNG？

趣味空間を設けるとなると、リビングやダイニングなどのパブリックエリアから切り離れた位置に計画しがちです。それはそれでメリットもあり、静かで他のことにわずらわされにくい空間になります。

ですがたとえば2階の隅に書斎があった場合、夫婦が顔を合わせる機会が自然と減少するのはもちろん、互いの気配も感じられません。

これからの人生の愉しみとして趣味ライフをスタートさせるなら、専用の空間はパブリックエリアの近くに計画するのがおすすめ。独立性を保ちながら”おこもり部屋”にならず、縁側やテラスを間にレイアウトすればそれが程よい緩衝帯になります。また、夫婦の趣味空間を隣接させるのも方法。一段落つけば庭に面したリビングで一緒にお茶を。今、どんなことに挑戦しているのかを口にしながらだけでも、夫婦のつながりを感じられる心地良い時間になると思います。



 独立した静かな空間ながら、縁側越しにダイニング空間に面する位置に配置。互いの様子がわかりやすい工夫です。



 双方の趣味室のそばに庭や縁側などの緩衝帯があれば、一緒に休みやすいのです。思わぬアイデアが浮かぶかも。



 階段ホールを広くとって実現した、趣味空間。上階の気配がわかり、ほど良い独立感が得られます。



 趣味は披露するのも楽しみ。ギャラリーを兼ねた空間は土間で仕上げると、お客様を玄関からそのまま招けます。

工夫はそれだけじゃないんです！

家事は誰と誰がどう担当する？



「昼間、ひとりだった頃は残りもので済ませられたけれど、夫がずっと家にいるようになると食事の用意が大変で…」

これは、趣味仲間から聞いたお悩み。とくに展覧会の前なんて時間が過ぎるのも忘れるほど夢中になってしまうので、手元が暗くなってからあわてて夕食の準備をすることもしばしばだとか。

幸い、うちの夫は「家事をシェアしよう宣言」を出してくれたのでそんなストレスとは無縁のはず。

でも、お掃除に洗濯、お料理のたびに立ったり座ったりしながら趣味を続けることがどんなに大変か、彼、わかっているのかしら。

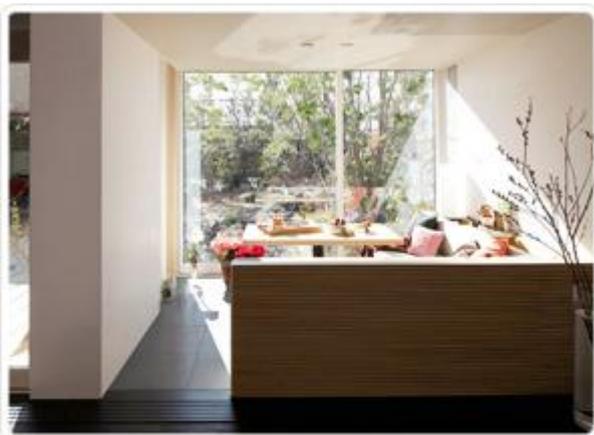
趣味も家事も両方楽しんでくれると理想的なシェアになると思うんだけど、不器用な人だけに、何だか不安になってきちゃったなあ。

LDK空間を大きくまとめたら、趣味もゆったり！

リタイア後はたっぷり時間があるとイメージしていても、そのぶん増える家事があつたりして、意外と忙しいもの。

それでも趣味の時間を楽しむ方法はあるのです。それが、リビング・ダイニングとキッチンを大きなワンルームでまとめること。LDKをぐるりと回遊できれば“ながら家事”がしやすく、個室が並んでいるよりお掃除も断然、はかどります。

そして趣味の空間はこのLDKに隣接させるのが、秘訣。食事の下ごしらえを済ませておいてから、自室でゆったり本を読んだり針を持ったり。距離の近さが、そのまま気持ちのゆとりになるんです。



 LDKのそばに、半島のようにプラスした趣味空間。
囲われているので作業に没頭しやすく、でも庭や
リビングとのつながり感もたっぷり。



 趣味の合間にゴロリと横になれるのは、やはり畳スペース
ならでは。LDKのそばにこんな茶の間スタイルの
趣味空間もおすすめ。



 ダイニングテーブルで作業すれば充分という人も、作品を
並べられるギャラリー棚と収納をプラスしておけば素敵な
趣味空間に。



 趣味デスクをリビングと隣接するスペースに。コンパクトですが、家事の合間に家計簿をつけたり調べ物をしたりと、活用度大なんです。

あなたの思いやこだわりをお聞かせください！

あなたなら、どんな”趣味空間”をつくれますか？

毎日をゆったりと、好きな趣味にいそしんで過ごす。この年代だからこそ味わえる人生の愉しみですね。

さて、皆さんが趣味のためのスペースをわが家に計画するとしたら、どんな空間が欲しいですか？

アンケート結果



みんなの家づくりの工夫を覗いてみよう！

わが家のイチオシ自慢

大人HOUSEの工夫、ここがちょっと自慢なんです！

01case 奈良県・H低

大人が主役の住まいは、ただ綺麗なだけじゃない。
生活感があり、それでいてカッコイイ家が理想です。

子育ても一段落して、住まいを新築。“子育ての場”から“大人が主役の場”へと変えることで、夫婦のこれからの時間を大切にしたいと考えたのです。私たちには長年の生活体験があるわけですから、ただ綺麗なだけの部屋は要らない。生活感があって、それでいてカッコイイ

家…それが、私たちのこだわりでした。リビングからは軒の深い縁側に出られるのですが、庭との一体感があって光も風もとても心地いい空間です。お蔭で、友人たちがやたらと遊びに来るようになりましたね(笑)。



02 case 栃木県・W低

リタイアを機に、住まいを建て替えて終の住処を実現しました。夫婦の時間もそれぞれの自由な時間も増えるわけですから、いろんな用途に応えられる空間をつくろうと思いました。それが“囲炉裏の部屋”です。小上がりになった四畳半の中央には掘りごたつのように囲炉裏テーブルを設置したので、くつろぎ感は満点。格子戸を通して土間、庭へと続く景色を夫婦で眺めている時間は、もう極上の癒しです。もちろん、息子夫婦や孫たちが遊びに来たときは、開放的で賑やかな集いの場にもなるんですよ。



集いの日は、囲炉裏部屋とリビングダイニングを一体空間として使います。



栃木県・Wさんご夫妻



家具のイメージからインテリアを発想したという、味わい深いリビング。



奈良県・Hさんご夫妻

03 case 山口県・O低

夫婦の共通の趣味である陶芸を楽しむ住まいをと、定年を前に終の住処を故郷に建てました。私たちは個性を競う芸術作品ではなく、機能性の中にある美しさ、“用の美”に価値を感じています。住まいも、同じことが言えるかもしれません。わが家は無駄なスペースが全く無く、一つひとつの空間が連続してつながっているため、住まい全体に広々感があります。でも夫婦が別々に過ごしていても、互いの気配をいつも感じていただけるんです。これぞ用の美、本当に住み心地のいい家になりました。





玄関ホールから見えるアトリエ。窓の向こうには、故郷の美しい風景が。



山口県・Oさんご夫妻

さらにとっておきの情報をご紹介します！

お役立ち情報局

ふたり暮らしの平屋「山本さんち。」を訪れてみませんか？

関東住まいの夢工場・暮らしのアイデア館

夫婦ふたりの住まいなら、上下階を行き来せずにワンフロアで暮らせる”平屋”が理想と言われる方も多いのではないのでしょうか。そんな思いをカタチにしたのが、関東 住まいの夢工場に建つ「暮らしのアイデア館・山本さんち。」です。

ご主人の定年を間近に控えた架空の夫婦”山本さん”が、終の住まいとして計画した平屋は、こだわりの工夫がいっぱい。実際に訪問してみれば、わが家づくりに役立つヒントにきっと出会っていただけるはずです。

広さよりも大らかさを大切にしたい！リビングのくつろぎ感をぜひ体感ください。



ふだんは二人暮らしだから、部屋の広さよりも大らかな雰囲気重視したい。そんな思いをかなえたのが、勾配天井を活かしたリビングです。落ち着き感のある格子間仕切りや庭につながる大きな窓もこだわりのポイント。ソファに腰掛けた時のくつろぎ感は格別です。

プラスαのこだわり

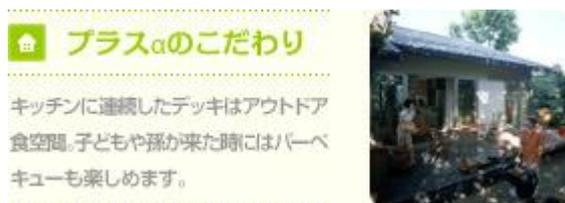
格子で間仕切った裏側は、掘りこたつのある茶の間。気ままに過ごせる、ご主人の居どころです。



料理づくりに存分に腕をふるいたい！使いやすさと心地よさがDKの見どころです。



お料理好きの奥さまのこだわりを反映したのが、ゆったりと開放的に計画したDKです。キッチンとダイニングを連続させて、調理～食事～後片づけの流れをスムーズに。また南北を庭を設けることで、明るさ・風通し・眺めを高めた心地よい空間に仕上げています。



つかず離れずの程よい距離感がいい！半独立にした夫婦寝室のアイデアは必見です。



ご主人は畳派、奥さまはベッド派。そんな就寝スタイルや就寝時間の違いに応えたのが半独立型にした寝室です。適度に気配が伝わりながらも、お互いに気を使わずに自分のペースで過ごせるのが魅力。これからのシニア夫婦におすすめしたい空間工夫例です。

プラスαのこだわり

庭に面して広々と開くフルオープンサッシを採用。車いすの使用もスムーズで将来的にも安心です。



いつも季節感のある暮らしを！縁側に腰掛ければ自然との一体感も格別です。



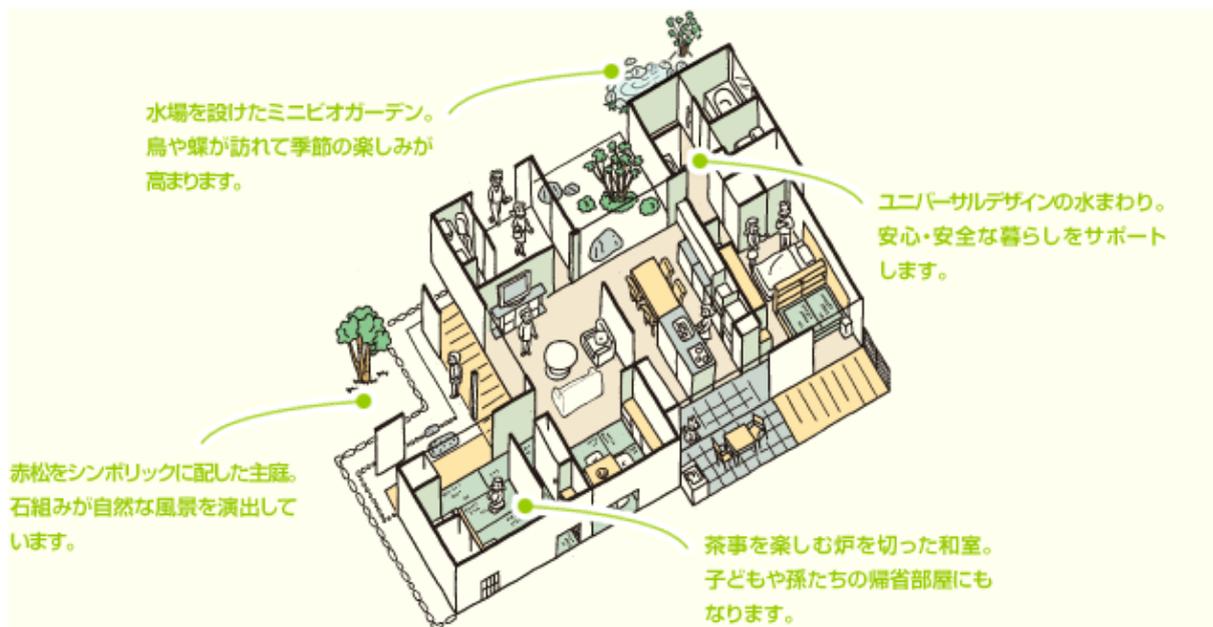
リビングから連続させた縁側は、庇を深くした軒下空間として計画。日差しの強い季節や雨の日でも気軽に出入りでき、四季折々の庭の変化を身近に感じられるようにしています。ぜひ実際に縁側に腰掛けて、その魅力をご自身で実感してみてください。

プラスαのこだわり

玄関脇に中庭を設けて、季節感のある出迎えを演出。わが家らしさのあるおもてなしにもなります。



「山本さんち。」には、まだまだ見どころがいっぱいです！



[>> 関東住まいの夢工場についてはこちら](#)

[じっくり知りたい調べたいあなたに！](#)